

てん刻

てん刻とは、(石)や(木)などに(てん書体)の印を刻することをいいます。書や絵画などの(サイン)として使用されていますが、てん刻自体も鑑賞の対象になっています。印には(陽刻)と(陰刻)がある。

文字を凸状に刻いたもの
押印したものは(朱文)とも
いう。



(陽)刻



(陰)刻

「てん書」は、もとは中国の(周)の時代につくられた古い書体。

問 次のてん刻について述べた文で正しいものには○、まちがっているものには×をつけなさい。

- ① 陽刻では、文字の周りを周っているので、文字と枠に色がつく。
(○)
- ② 陰刻では、文字そのものを周っているので、文字に色がつく。
(×)
- ③ 印のデザインは、押したときのことを考えて、原図と逆に転写するように印面に転写する。
(○)
- ④ 朱肉をむらなくつけ、ずれないように気をつけて押す。
(○)